

社会科学習指導案

広島市立〇〇小学校
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成 26 年 6 月〇日 (〇)
- 2 学 年 第 5 学年〇組
- 3 単元名 「米づくりのさかんな庄内平野」
- 4 単元について

【教材観】

本教材は、我が国の米の生産について学習することを通して、農業が国民の食生活を支えている重要な産業であること、土地利用の特色、農業に従事する人々の工夫や努力、国民生活を支える農業の発展について考える教材である。米づくりのさかんな庄内平野を題材として取り上げ、写真やグラフ、文章資料などを活用して、庄内平野の土地の様子、米づくりが自然条件や人々の工夫や努力により支えられていること、農協との連携や運輸の働き、今後の農業生産などについて、調べることができる。

庄内平野で米づくりが盛んであることを全国の米づくりの実態と庄内平野の米づくりの実態を比較したグラフから読み取ったり、庄内平野の米づくりの特徴を土地利用図や海沿いの航空写真から読み取ったり、米づくりの課題を米の生産量と消費量の変化を表したグラフから読み取ったりするなど、課題意識をもって資料を読み取る活動を取り入れることのできる内容が多く含まれている。

【児童観】

本学級の児童は、資料の読み取り方について 4 月当初から学習している。グラフの題や縦軸、横軸の確認、大きな変化を読み取ったあと詳細な変化を読み取る読み取り方、写真の特徴に注目する視点や今まで学習してきたこととの共通点、相違点などと比較した資料の読み取り方などを学習し、「観察・資料活用の技能」は、6 月現在 8 割の児童に定着している一方、資料の読み取り方がまだ十分でない児童も 1 割いる。(ワークテストの結果より) また、高学年になり、授業で多くの資料を提示されるため、どの資料を何に注目して読み取ればいいのか、理解するのが難しい児童も数名いる。

米づくりを中心とした農業に関する学習については、田植えや稲刈りを体験したことのある児童が 1 割、家の人と買い物に行った際に、産地や生産者について考えたことのある児童が 2 割、農業生産についてのニュースに興味関心を持っている児童が 1 割であることから、事前の知識はあまりないものの、総合的な学習の時間で取り組んでいる食についての調べ学習には積極的に取り組んでおり、取り上げる題材によっては興味を持って学習に取り組むと考える。

児童は、普段から電子黒板やデジタル教科書を使った授業に慣れており、必要に応じて、発表の際に電子黒板の各機能を操作したり、デジタル教科書の画像やグラフを指し示しながら発表したりすることができる。その際に、聞いている人に体を向けて発表したり、発表した後に反応を求めたりするなどのプレゼンテーションへの意識は、定着に差はあるものの、全児童が意識して取り組んでいる。

【指導観】

指導にあたっては、教科書に掲載されている資料を提示する順番、提示した際の発問を工夫して授業を組み立てたい。資料を提示する順番や発問を工夫することで、授業のめあてに迫る内容によりスムーズに気付かせることができ、資料の読み取り方についても、必要以上に指示や補助発問をしなくて済むと考える。資料を提示する際に、デジタル教科書のアニメーション機能や画像拡大機能を活用する。資料を通して児童に気付かせたい内容は、デジタル教科書の機能を活用して、視覚的に絞って提示することで、学力が低位の児童が資料を読み取る際の支援となると考える。また、同様に、動画やアニメーションの提示は、児童が興味をもって社会的事象をみるきっかけとなると考える。

発表する際には、言葉だけでは伝えにくい内容は、電子黒板上の資料を指し示しながら説明するよう指示し、聞く人に分かりやすい発表を心がけるよう指導する。

5 本時の目標

庄内平野周辺の写真や土地利用図をもとに、庄内平野で米づくりがさかんな理由を自然条件、人々の工夫や努力の面からとらえることができる。

6 本時の展開

	学習活動・主要発問	予想される児童の反応	指導上の留意点・支援 ★ICTによる支援	評価
つかむ	<p>1 米づくりに適した条件を確認する。 「米づくりがさかんな場所は、どのような条件が整っていると思いますか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な水 ・豊かな土 ・高い技術 ・働く人々 ・平らな土地 ・区画整備された田 	<p>★課題に対する予想がもてるよう、電子黒板に庄内平野の航空写真を提示する。</p> <p>・まとめへの見通しをもたせるため、児童の発言が、自然条件、人々の工夫や努力にまとめられるようであれば、条件を種類分けして提示する。</p>	
考える	<p>2 本時の課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>なぜ、庄内平野では米づくりがさかんになったのだろうか。</p> </div> <p>3 庄内平野の土地利用図を調べる。 「土地利用図から何がわかりますか。」</p> <p>「なぜ、川の周辺に広がっているのですか。」</p> <p>「田は、海側に集まっていますが、海沿いにはありません。海沿いには、何が広がっていますか。」</p> <p>4 庄内平野で暮らす人々の工夫を調べる。 「なぜ、人々は海沿いに畑や松林</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川の周辺に田が広がっている。 ・海側に田が広がっている。 ・平地のほとんどが田。 ・海沿いには、田がない。 ・米作りには、水が必要だから。 ・川が、肥料が含まれた土を運んでくるから。 ・川の近くだと、水を取り入れやすい。 ・畑 ・ビニールハウス ・砂浜 ・松林 ・海沿いに木を植えるこ 	<p>★田の土地利用のされ方について注目させるため、デジタル教科書の土地利用図の中で、田のみを提示する。</p> <p>★松林の存在に気付かせるため、海沿いに田がないことを取り上げ、海沿いの写真を提示する。</p> <p>★理由を発表する際、</p>	<p>【技】土地利用図から庄内平野の土地利用の特徴を読みとっている。 (ノート、発言)</p>

<p>広げる・振り返る</p>	<p>を作ったのでしょうか。]</p> <p>「庄内平野に吹く風には、どのような役割がありますか。」</p> <p>5 庄内平野の自然条件を調べる。 「川や土、風以外の自然環境は米作りにどのように影響しているのでしょうか。」 「庄内平野では、気温や日照時間にどのような特徴がありますか。」</p> <p>6 庄内平野で米づくりがさかんになった理由をまとめる。 「庄内平野は、なぜ米づくりがさかんなのでしょう。」</p> <p>「授業の感想を書きましょう。」</p> <p>「次の時間は、人々の工夫や努力について詳しく勉強します。」</p>	<p>とで、海から吹く風をよける工夫をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂では稲が育たないので、土地を生かすよう、果物や野菜を植えた。 ・稲につくよくないばいきんをころす役割。 ・ぬれた稲の葉をかかわかして病気を防ぐ役割。 ・酒田市は、宮古市に比べて平均気温が高い。 ・酒田市は、宮古市と比べて、日照時間の差が大きい。 ・最高日照時間は、酒田市の方が長い。 ・稲が成長する夏の日照時間は、酒田市の方が長い。 ・庄内平野は、広い平野があり、夏の日照時間も長いので、米づくりがさかん。 ・庄内平野は、米づくりに合った自然条件が整っているため、米づくりがさかん。 ・庄内平野は、人々が米づくりをしやすいよう工夫や努力をしたから、米づくりがさかん。 	<p>写真の中に根拠がある場合は、説明内容を明確にするため、電子黒板上の画像に書き込みながら発表するよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書から理由を読み取らせるため、季節風の役割が書かれているところに線を引くよう指示する。 ★役割を見つけにくい児童には、探す範囲を電子黒板に示す。 ・庄内平野の特徴に目を向けさせるため、酒田市と宮古市を比較して発表するよう指示する。 ★日照時間に関しては、稲が成長する夏に着目するよう、アニメーション機能を活用してグラフを提示する。 ・具体的な事実だけでなく、「自然条件」「人々の工夫や努力」など、社会の言葉を使ってまとめるよう促す。 	<p>【技】教科書から季節風の役割を読みとっている。(教科書、発言)</p>
-----------------	--	---	---	---

7 板書計画

6/24

めあて なぜ、庄内平野では米づくりがさかんになったのだろうか。

【予想】自然環境，土地の様子

【田の広がっている場所】

- ・広い平野一面に広がっている。
- ・川の周辺に田が広がっている。
- ・海沿いには田がない。

} 広 豊
い かな
土 地
水

【庄内平野の海沿いの様子】

- ・海沿いに，松林を植えた。
- 海から吹く風を防ぐために、植えた。

} 人 自然
々 対
の 対
工 ず
夫 る

→砂浜で水を吸収しにくいので、田が作れなかった。

【庄内平野の気温や日照時間】

- ・宮古市に比べて気温が高い。
- ・稲が成長する夏の日照時間が長い

} 稲が成長する時期
に都合がいい

【まとめ】

- ・庄内平野は，米づくりに適した自然条件が整っているので，米づくりがさかん。
- ・庄内平野は，自然に対する人々の工夫があるので，米づくりがさかん。